

# こどもと健康

NO・153

2015・1・5

あけましておめでとうございます

## インフルエンザ流行、急拡大！

昨年12月から前年より3週間早くインフルエンザの流行が始まりました。泉北ニュータウンでは庭代台中学校から学級閉鎖が始まり、庭代台小学校、上神谷小学校、槇塚台小学校へと拡大、2学期中に10校10クラスが学級閉鎖となりました。堺市では学年閉鎖が3校5学年、学級閉鎖が23校47クラスありました。御池台小学校ではインフルエンザによる欠席者が最大クラス4名で留まり、学級閉鎖はありませんでした。全国的に見ても12月15日からの第51週の全国平均で定点当たり、15.2と注意報レベルの10を超えており、埼玉県では35.4と警報レベルの30を超え、次いで北海道26.0、岩手県24.3、奈良県23.9、神奈川県22.5と流行しており、大阪府は17.8でした。冬休みに入ってから患者が急増、当院でも1日最大13名にインフルエンザがあり、私が管理医師をしている堺市泉北急病診療センターでは12月23日には患者数1日500名を超え、急遽年末年始の出務医師を小児科3名から4名に増やし、内科も2名態勢としました。所が、30日に633名、31日に651名の患者数を数え、年が明けると成人のインフルエンザが急増し、内科3名態勢としましたが、日中の内科の患者数が小児科を上回る過去に経験のない事態となり、待ち時間が大幅に延長してしまいました。因みに泉北急病診療センターの一日最多患者数は5年前に新型インフルエンザが流行した時に記録した711名でした。5日からの仕事始めと共に、更に流行が拡大することが懸念されます。3学期が始まると学校、幼稚園、保育所で流行が拡大する可能性もあります。今シーズン、インフルエンザの流行が始まって以来、A香港型が流行の主流で流行株の変異が進みワクチン株と隔たりがあるとの報告もありますので、予防接種を受けた方も油断せず、うがい、手洗い、マスクで少しでも感染のリスクを下げましょう。

インフルエンザは冬に流行する「かぜ」と思われていますが、「かぜ」とは違って「インフルエンザ」と考えて下さい。つまり、普通の「かぜ」とは異なり、症状が強く命にかかわることもある病気です。その為、インフルエンザが流行すると、抵抗力の弱い乳幼児や高齢者が脳炎・脳症、肺炎等の合併症により亡くなることがあります。特に、高齢者では肺炎球菌の二次感染による肺炎で亡くなる方が多く、昨年からは堺市では65歳以上の高齢者に肺炎球菌ワクチンを自己負担金4000円で接種できますので、一度も受けられていない方は早めの接種をお勧めします。当院でも接種できますので、予約をお願いします。

# RSウイルス感染症再び、流行！

例年、寒くなるとRSウイルス感染症が増えてきます。インフルエンザウイルスと同じく、冬の「かぜ」ウイルスですが、今年は8月末から保育所を中心に流行が始まりました。潜伏期は4～5日で鼻水、鼻づまり、咳があり、発熱を伴う事もあります。乳幼児特に、1歳未満の乳児が罹ると、更に喘鳴（ヒューヒュー、ゼーゼー）を伴った咳をして高熱も出て呼吸数も増し、息苦しくなることがあります。ウイルスを含んだ鼻汁や分泌物が気管支に流れこむ為、気管支炎から細気管支炎、気管支肺炎が起こるのです。次第に哺乳できなくなり、新生児では無呼吸になることもあります。乳児は急速に気管支炎、細気管支炎から気管支肺炎へと進行することがあるので、注意が必要です。8月末から流行が始まり9月末をピークに一旦減少しましたが、11月中旬になって再び増加して年末には乳幼児ではインフルエンザと同じ位に流行しています。今シーズンになって当院から4名が気管支肺炎を合併して入院されました。迅速検査がありますので、強い咳や喘鳴を伴う乳幼児は早めに受診しましょう。

## みずぼうそうワクチンを接種しましょう

保育所、幼稚園で毎年乳幼児に流行する「みずぼうそう」ワクチンが日本でも昨年10月からやっと定期接種化されて無料になりました。対象は1歳と2歳児で1歳のお誕生日がすんだらMR（はしか・風疹混合）ワクチンと同じ時期に1回目の接種をします。2回目の接種はMRワクチンが就学前の年長児ですが、みずぼうそうワクチンは6ヶ月～1年後に接種します。ワクチンを接種すると1ヶ月位で免疫は95%程度出来ませんが、時間の経過と共に減衰して保育所などで流行すると軽く罹るケースが結構あります。これを避ける為に、2回目のワクチンは6ヶ月～1年後に接種します。既に罹った方や2回接種した方は対象外で、1回接種した方は6ヶ月以上あけて2回目を接種します。尚、本年度に限り（平成27年3月31日まで）3、4歳児も1回だけ接種できますが、過去に1回でも任意接種を受けた人は対象外となりました。既にみずぼうそうに罹った人も対象外です。1歳のお誕生日になると、はしか・風疹混合（MR）ワクチン、みずぼうそうワクチンの1回目とヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンの追加の4本の接種が必要となります。4本の同時接種も可能ですが、3回目のヒブワクチン接種から7カ月あける必要がありますので2度に分けて接種されても構いません。

## 母子手帳で予防接種漏れを確認しましょう

予防接種は感染症から人類を守る大切なものです。昔は「命定め」と言われた「はしか」は全国でここ数年200～400名に留まり、亡くなられた方はありません。4年前に始まったヒブワクチンはわずか3年でヒブによる髄膜炎を98%減少させました。風疹も昨年後半から散発的に出ますが、先天性風疹症候群の報告はなくなりました。このように感染症の予防に重要な役割を果たしています。入学するまでには年に一度は母子手帳で接種漏れがないか確認する習慣をつけましょう。受診の際に、母子手帳を持参されれば、任意接種のワクチンも含めて、ご相談に応じます。

ワクチン接種によって感染症から子ども達を守りましょう。